

4745^{P-1/2} (ニ) そい 志 (市) 4667^{P-3/2} 柳所ヶ谷 5416 4730' 市町字 297
 阻止 1306 (市) 4529^P ... 谷 九ツ木 232^P
 4726^P ... 谷 かのま (市) 4733^P 福屋の地図 (録)

コクヨ ケー20 20

4,745^p-2/2



写真図版 752 ^{ゆくは}行橋市 ^{ごはがたに}御所4谷 ^{こうごう}の神籠石

『福岡県地名考』^{うめはしたかお}梅林孝雄 ^{かいこう}海鳥社 2003年4月15日 ^{くちえ}第3刷発行 ^{くちえ}口絵参照

・全長4kmにわたり ^{はこうが}花崗岩 ^{きりり}の切石が並らび

長門城 ④4667-2/2 能毛郡 地名599' 同防口6郡の一 にも山にあり

4,746^P

253

漕ぎ進もうとするかも知れない。
大和村 石城山 周防国。現在の山口県能毛郡
御所ヶ谷の山城の軍をりめ、東へと進
路をとった敵は、東方真正面にこの石城山の
山城を目にする

迷路のように続く瀬戸内海を東へ進む敵軍

突如

は、昼・夜となく右や左に現わしては襲って
くる日本軍の攻撃によって次第に、心身共に
疲弊してゆくことになる。どんなに

瀬戸内海の東部の屋島城あたりの海域を通り抜け

さらにも奥の生駒山塊の高安城を打ち破
って、大和盆地内へ入る。はなは

だ困難なように思われる。

しかも、目指す倭国（大和国）に天皇の陣
営があるものやら、どうなのだから分らないと

③ 4533 高市天皇は肥後国を治められた

同 ④ 235-3/2

*大宰府を遷す

④ 4740

4747

みはか
見せう 2129

なれば、進撃も鈍る筈であらう。

もしかいたら、

へ疲れ果てた頃を見計らって、背後、九州

の方から、天皇の軍が大挙して押し寄せて来

るかも知れない✓

のである。

米

とはいえ、こんなに数多くの防備の為の

山城、神籠石が、全て、天智天皇の時代に

築かれたのかどうかは分からない。

恐らく、天智朝から天武朝へと引き継がれ

て作られた神籠石もあつたのであろう。

ことに、

へ福岡県朝倉郡杷木町鶴ノ木城跡の神籠石

は、この後に述べる壬申乱を教訓として、天

武朝になってから築造された。

と思われ。

ともあれ、危機に直面していたこの当時、

へ天智天皇および天武天皇は、大倭国（九

州地方）。倭国（近畿地方）のどちらか一

H29(2017)6.9~6.21
H30(2018)11.13(火)~11.13(4回)

下

4.748^P

方^{ほう}に都^{みやこ}を定めるとい^いうこと^{こと}をせす^せ、
居^い處^{ところ}を時^{とき}折^{おり}遷^{うつ}—
軍^{いくさ}の指^{さし}揮^きをとるつもり^{つもり}であ^あら^られた^た、
と推^{おし}察^ささ^される。 (「[〃] 甚^し筋^{しん}」 第三^{だいさん}編^{へん} 『防^{ぼう}備^び』
に

米

こと

①

11.11.22(月)
49.4.19(土)
45.9.24(金) ③3608^{P-4/4}
563.12.25(日) ③3712 ③3608^{P-4/4} 4,750^P

「小町」86^P

③287^P

③3706^{P-1/2} 157

257

三つの本尊、日葉師如来像、日釈迦三尊像、
日阿彌陀佛、金堂内の所定位置に並べ
て安置されたように推察される。(同頁) 652
鳥寺は、日法隆寺とも称されることにな
ったのであろう。
なにより、日法隆寺と日斑鳩寺の両方
の寺の本尊が安置されているのだから、
△どちらの寺名で呼んでも正しい
と解されたに相違ない。(既述)
また、この後、大倭国(肥後国)の
日法隆寺の焼け跡あたり一帯の地勢は、す
っかり様子が違ふようになるまで、徹底的に
変えられしまったことであつたろうか。
日上宮聖徳太子伝補願記に、
「斑鳩寺被災の後、衆人寺地を定め得な
ったので、百濟の入師は衆人を率いて、葛野
の蜂岡寺(現在の京都の広隆寺)と川内の高
井寺を造らしめ、云々」の前身の寺
と記されている。(第七十章へ西の日法隆寺
東の日斑鳩寺の項において既述)

(*)

③3604^{P-3/4}

だろ

798

であらう

10巻261^P ③3691^{P-5/6}

④4682¹⁵⁹ 年23 ⑥6775^① ④4777^P 懷風藻68^P69^P ④4563^{P-1/2}
 扶桑略記62^Pに 天智10年 25才とある ④4684^同 4,751^{P-1/2} ④4687^{P-1/2}
 ④4775^{P-6P}

大友皇子、再び皇太子となる

大友皇子は、二十三歳の時、すなわち天智九年（六七〇）に、再び立って皇太子の位につかれましたのであろう。（一部重複）

懷風藻は、大友皇子が、かつて夜夢を見たという記事の後に、こう述べている。
 7年甫めて弱冠、日本書紀によると天智

十年正月五日、二十四歳の時に、太政大臣に拜され、百揆を總べて元を試みる。皇子博学多才、文武の材幹有り。始めて萬機を親しめ、群下畏服し、肅然にあらすといふこと莫し。
 年二十三、立ちて皇太子と爲る。一、中略、一、壬申の年の乱に会ひて、天命遂げず。時に年二十五とある。（第八十四章「草薙劍の盜難」の項参照）
 なお、

see ④ 4775⁰ ~ 6^p

平

紀下37K庄17

4,752^P

前頁445

4564^P 略略記
4645^P

4682^P 4438^P
4563^P 367^P
1630^P すめち

改行

天智九年（六七〇）に、大友皇子が
に再び立つて皇太子になられたというこ
は、とりもなおさず
へこの時（もくば）以前に（大海人
皇子の）皇太子位が剝奪され、まねた
という内情を強く暗示しているように思われる。
（あまり）天智七年（六六八）二月二十三日
からのち皇太子であつた大海人皇子に替わつて
天智九年（六七〇）に、大友皇子が皇
太子の地位につかれたのであろう、と推察さ
る。
妻であつた額田王を取りあげられ、ういて
皇太子の位までも奪われてしまつた大海人皇
子の無念さは、いかばかりであつたろうか。
う人なるある日、この朝廷内に奇怪な亀が
持ち込まれてきた。
天智紀九年六月条には、こう記されてい
る。邑（都邑か）の中で亀を獲た。背中
に申（う）という字が書かれてあつた。上
部は黄色で下部は黒く、長さ六寸ばかり
であつた。申（う）という字は壬申の申
であり、

4682^P 179

12.5

二十歳の時

4753P

紀元374年

正倉院の
スツポンの宮
北斗七星
Sfile 4753P
天地玄黄
1549P
白虹月を
由53023年

(凶事の兆)

天地玄

日を貫く形と見られる。また古来、
黄(天の色は黒、地の色は黄)とされて
から、上か黄で下か黒、というとは天地が

ひっくり返ることを意味している。

「不吉な亀だ。誰の仕業だろうか」

「かに」ついに真相は判からなかった。

「あつともこの記事は、日本書紀の筆者か、

壬申乱の伏線として挿入したのであろうか、

ともいわれている。(「日本書紀」(日本古

典文学大系、岩波書店、三七四頁注十七参照

「そうか、知らない。――」壬申乱

の二年前、すでに何らかの徴候があつたと

解すことも出来得よう。

*

4631-3/

舒明天皇は「太政天皇」になった

いとこ
従兄弟 138P
紀下 375P

4.754P

新元
紀下 370P
おみ 422P
おみ 475P
おみ 475P
おみ 23P
おみ 初時

この頁 14行

大友皇子を以て太政大臣に拜す

大友皇子が再び立って皇太子となった天智

九年（六七〇）は何事もなく暮れて、年が改

まった。
天智十年（六七一）正月五日に、皇太子大

友皇子は太政大臣に拜され（官位を授け

らぬ）、また筑紫率であつた蘇我赤兄臣は左大臣

とされた。
天智紀十年正月五日条に、

「大友皇子を以て太政大臣に拜す。蘇我

赤兄臣を以て左大臣とす。中臣金連（鎌足

の従兄弟。壬申乱に刑死）を右大臣とす。蘇

我果安臣・巨勢人臣・紀大人臣を以て御史大

夫（後の納言に相当）とす」

とある。

なお、この記事は太政大臣の初見であ

＊

HN

● 後年の太政大臣は、天皇の師範として、天下の師表となる人を任じたが、しかしこの時の太政大臣はかなり異なっていたのであつたようにある。

● 懷風藻の大友皇子伝に「総百揆」「親萬機」と記されているとおり、太政大臣は、天皇に代わつて國政を統理することとを任務としたのであろう。

● またこの際、太政大臣には、

「聖徳太子による皇太子摂政の伝統をおうものであつたろう」とみられている。

「日本書紀」(日本古典文学大系、岩波書店五八三頁、補注二七一―二七六参照)すなわち、皇太子大友皇子は太政大臣となり、――聖徳太子が萬機を総摂りて天皇事したもうたのと同様に、國政を統理されたように想到される。

● 恐らく天智天皇は皇太子大友皇子を大宰府での政事を自ら行うことが出来るように、太政大臣に押し付けたのであろう。

● あるいは、大友皇子を再び天皇とする

4,756^P

475

肃然

174
- 1060
3 4

懷仁堂^P69^P

遠の朝廷(

⑦ 4569^P
=x

紀下 310
天智 7 年 是

群

下田 長

服 (

肅

然世
に

あら

す
と

11
131

二
七

莫

HS.9.25(2)⑤
→

同又
紀F375P1232 ④4670⁹

4,757^P

①→ ②959^P
施行 法令の効力を発生せしめ see! ④4671⁹
正A5B 太政大臣に拜す ④4754⁹ 9へ

太政大臣大友皇子宣命す

皇太子大友皇子が太政大臣になつた日の翌

日 天智十年(六七一)正月

六日に、皇太子大友皇子は奉宣して、冠位・
法度の事を施行され、天下に大赦を行なわれた
のであろう。

天智紀十年正月六日条に、

「東宮太皇弟奉宣して、或本に云はく、大

友皇子宣命す。冠位・法度の事を施行ひたま

ふ。天下に大赦す。法度・冠位の名は、具に

新しき律令に載せたり」

とある。律令

・なお通常、「東宮太皇弟」は大海人皇子

を指すと考えられている。

・しかし、この時侯での政務担当者は、太政

大臣大友皇子なのだから、――――注の或本

或本に云はく、大友皇子宣命す」の方加事

実を伝えていゝ、と見る説が従来からあった。

(「日本書紀」(F)日本古典文学大系、岩波書店、三七五頁注三三参照)

店、三七五頁注三三参照)

宮(皇太子)であり、「東宮太皇弟」とは、「東

首都の天皇を兄とみなすとき、太政大臣であり、

照「皇弟」と称されるべき人、隋書倭国伝参

り、副都大宰府の大友皇子のことであろうと

解いてみた。あそまぎらわしく述べているのだから

また、冠位の女とについて内容を記さな

のは異例というが、西都大宰府での冠位

を記すわけにはいかなかったのであらう。

つまり、この日の「宣命・大赦・律令」は

太政大臣大友皇子が「総百揆」・「親萬機」

西都大宰府での出来事を述べたものなの

であらう、と思われる。(要検討)

なお参考次に述べると、天智即位元年(称

制七年、六六八)に日本最初の令曰近江令

が制定された。とする説がある。(「日本

書紀」(F)日本古典文学大系、岩波書店、五八

四頁補注二七一―二八参照)

とあり、(「近江令」参照)

とあり、(「近江令」参照)

18/9 下18/8

*

か小たところと推定されていゝ。
都し虎尾俊哉、講談社、一四〇頁参照。
また、日時^{とき}は日月^{つき}の転^{てん}か、という。
(「広辞苑」八時^{とき}参照)

から、大宰府に築かれた新^{あた}しい台^{だい}へ移^{うつ}し置^おかれ、大宰府に於^{おい}ては始めて候^{とき}時^{とき}を刻^きみ、始めて用^{もち}いられた。といった意味なのかも知れない。
なお、大宰府政^{せい}庁^{ちやう}の西^{さい}と東^{とう}には小丘^{しょうきゅう}陵^{りやう}があつて、西側^{さいがわ}の小丘^{しょうきゅう}は蔵司^{くらうのつかさ}と呼^よばれており、その名^なのとおり倉庫^{くらう}があつたろうという(既述^{すで})。そして東側^{とうがわ}の小丘^{しょうきゅう}は日月山^{つきやま}平^{ひら}(長山^{やま}のなまりか)といひ、漏刻^{ろうこく}(水時計^{みずどけい})が置^おかれたところと推定^{すい}されていゝ。(「奈良の都」)

第499回 大宰府政庁近傍図

美努王
紀下392
紀下414
-14

紀下391

紀下377
④4665

4,761

紀下377
④4665

④4666

昇進 1097

④4665

光明寺
紀下377

栗隈王（栗前王）——三野王（美努王）——
橘諸兄

天智十年（六七一）正月五日
我赤兄臣が左大臣に昇進したので、筑紫率の
座が空いた。

そこで、半年後の六月、栗隈王が筑紫率と
て再任されたように推察される。（第八十四
章へ重出記事）の項において既述）

天智紀十年六月是の月条に、
栗隈王を以て、筑紫率とす

とある。
栗隈王（栗前王）は敏達天皇の孫であり、
三野王（美努王）の父、橘諸兄の祖父であ
る。

翌年（六七二）に勃発する壬申乱で、
紫大率栗隈王は、大友皇子の命令を拒否。栗
隈王の子三野王、弥努王・美努王・美努王と
も書くと共に、大海人皇子方について武勲

令和2(2020)6,11(木)~6,12(4回)

H5.9.26(回)⑥
→H9.4.20(回)

4,762^P

タイトル④4814^P
④4815^P 紀下392^P注3
414^P注14 (こと)

1/12 IF 1/12
1/11

をあげる(こと)になる。
■但し、天武紀元年六月二十四日条・天武紀二
年十二月十七日条の「美濃王」とは別人であ
ろうという。(第八章へ東国への出発の
項において述べたい)

*

紀世音寺 4689
幸福寺 4635

観世音寺の火災
天智10年11月24日
南 4765°-2/2

4764°-1/3

紀下378°
559
12月

17
-8
9
4769° 1579

ものほとけ かいがんえ
百佛の開眼会

① 天智紀十年十月八日条に、

「内裏に於て、百佛の眼を開けたてまつ

る

とある。

② なお、九日後の十月十七日条に、

「内裏の佛殿に

とあつて、宮中の仏殿の初見である、という。

（「日本書紀」(下) 日本古典文学大系、岩波書

店、三七八頁、注十五参照)

① ②を合せて考えると、

「内裏の佛殿において、百佛の開眼会が行な

われた

ように解される。

つまり、もう一つなら、

「天智天皇は、崇福寺を建立し、母斉明天

皇の爲に観世音寺の造営を発願されただけで

なく、――さらに御自身の爲であらうか

内裏に百佛を安置できるほどの大きな佛

4,764^P-2/3

うち、なか
裏、大カン
2007^P
7/17

④4769^P-2/2

いふか
訝しい

こ

殿を作られた

というこのように見受けられる。

しかし、何となく奇妙に思われる。

訝しい

天智天皇は、いつから、そんなにも信心深

くなられたのであろうか。

なるほど、この短い文だけでは判然としな

いか、あるいは、

へ内裏とは、有智の裏

といった意味なのかも知れない。

つまり、すなわち

へ有智の内、日観世音寺の佛殿において

百佛の開眼会が行なわれた

ということなのではなからうか。

*

参考迄に述べると、

雄略紀十七年三月二日条に、

山背國の内村

とあるが、この日内村は、和名抄に

上左 中から右の字の多い
4/25 ひびき川水かき生(7)いた。
神経を抜いた。冠をかぶせる由。

由1689^P-1/2 4,764^P-3/3

紀上495^P 213^P つき 和名134^P
地名辞 222^P 宇智郡 宇智郡

次頁から

山城國綴喜郡有智郷
と記されてゐる所(今、京都府綴喜郡八幡町
内里付近)のこゝであらう、という。
延喜神名式、同郡条に、口内神社とある
と延喜神名式、同郡条に、口内神社とある
雄略紀十七年条の口内村は久世郡
の口内村とある
とする。(「日本書紀」(上)日本古典文学大系
岩波書店、四九五頁注十三。「和名類聚抄」
名考證と池辺彌、吉川弘文館、一三五頁へ有
智。同二三三頁へ宇治参照)
また、先に述べたように
筑前国筑紫郡(宰府町大字内山あたり)
とを、古代に於ては、口内山と称して
いた
という。(第二十五章へ風流島)の項におい
て既述。「帝国地名辞典」太田為三郎、名著
出版、二二四頁へ内山参照)

815^P

天つき
改訂

あ4764°-1/3459 大カン 2007^P
小林 876^P

4,765^P

前頁

のであろう

(*)

あ4764°-1/3459

観世音寺「二字」は天智十年十月八日に落慶した
と仮定して、百佛の開眼会が行なわれた
世音寺の佛殿において、有智（内）の裏の観
と仮定して、はなはだ強引なことから、

一方、日裏は、日うち。日なかの意
である。「大字典」上田万年、講談社
へ裏。「漢和辞典」小林信明、小学館
へ裏参照

ともあれ、往古においては、
有智は、日宇治とも、日内とも

天智紀十年（六七一）十月是の月条に、

天皇、使を遣いて袈裟・金鉢・象牙・沈

水香・旃檀香、及び諸の珍財を法興寺の佛に

奉らゝめたまふ

とある。多くの珍財を

天智天皇は、大倭国（肥後国）の法興寺

の佛に奉られたのであらう。

あるいは、

へ十月八日の百佛の開眼会に法興寺の

僧達を招いた返礼として、法興寺の佛に

種々のものを奉られた

といふことなのかも知れない。

*

⑦ 4689^P 日本社 ⑧ 429^P
 弘経 921^P

④ 4609¹⁹ 安樂は天智10年大宰府成立以前創業か 紀下380¹⁹
 ⑤ 4692¹⁹ 天智10年大宰府成立前後ころ ⑥ 4690¹⁹ ~ 4691¹⁹
 問堂主 ⑦ 4609¹⁹ 4,766¹⁹ - 7/2 日本産 三十三箇堂の1001体も製造

らけりん
開眼会
「余命の大仏」75P

らけりん 2302P
落慶神社仏殿の完成
細世三子 ④4689P

と仮定してみたい。

つまり、ようすに

観世音寺は、天智十年十月八日に落慶し

た。

のであろう。

予め述べると、翌月の十一月二十四日、近江宮の火災（大宰府の火災であろう）の時、三倉から出火した火が、折からの冬の西風にあおりやいて燃え広がり、中門および南門を焼く。よそ東の方へ

き、さらに百体の仏像を安置したばかりの観世音寺をも焼き尽してしまった。と推察される。焼野原になつてしまったのだらうか。第500回参照

なお、時代はかなり下るが

平安時代後期の長寛二年（一一六四）、後白河法皇の勅願によつて三十三間堂が創建され、内に一千一体の千手観音及び二十八部衆が安置された、という。「広辞苑」。「日本社寺大観」へ蓮華王院（参照）

観世音寺（観音寺）には、もともと百体の観音像が安置されてたろうか、と定かならないこと。なから想像される。のではなか

もの